総会員数 5,972 名
（2019.2.28 現在）

Northerner

公益社団法人北海道理学療法士会ニュース

No.217
April
2019

報告

災害時のリハビリテーション支援に関する研修会（実践編）を受講して
５分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS アンケート調査報告

最新情報

第 70 回北海道理学療法士学術大会からのお知らせ
公益社団法人北海道理学療法士会　役員選挙のお知らせ
メールアドレス登録のお願い
知識のマグマ
５分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS
職場紹介
講習会・研修会案内
講習会・研修会の受講申込に関するお願い
シリーズ田中まさしが行く！（第 4 回）
掲載作品（写真等）募集のお知らせ
平成 30 年度第 3 回臨時理事会　議事録要約
事務局からのお知らせ
冊子個別発送先変更のお知らせ
求人募集広告申込要項
Northerner 原稿締切

第 70 回北海道理学療法士学術大会からのお知らせ

～事前参加登録などの各種登録が開始・予定されています～

事前参加登録：2019年3月22日（金）～5月31日（金）

ランチョンセミナー参加登録：2019年3月22日（金）～5月31日（金）

フレッシュマンセッション申込み：2019年4月3日（水）正午～4月13日（土）正午

※詳細は大会ホームページをご参照ください。

テ　ー　マ：AI・IoT・ビッグデータ・ロボティクス時代における理学療法士の存在意義
開　催　日：**2019 年 6 月 22 日（土）・23 日（日）**
会　　場：帯広市民文化ホール（帯広市西 5 条南 11 丁目 48 番地 2）
大会ホームページ：http://www.pt-hokkaido.jp/congress/
（当会ホームページよりアクセス可能です。）

▶『託児ご利用』に関するお知らせ

現在準備中ですが大会ホームページへ掲載予定ですので、ご確認をよろしくお願いいたします。

公益社団法人北海道理学療法士会　役員選挙のお知らせ

公益社団法人北海道理学療法士会役員（理事・監事）の任期満了に伴い、役員選挙を行います。

1. 選挙すべき役員の定数

【理事】

全道：16 名

支部：各支部（道南・日胆・札幌・石狩・後志・空知・道北・十勝・釧根・道東）1 名の全 10 名

【監事】

全道：2 名

2. **任期：理事・監事　2019 年 6 月 15 日～ 2020年度事業の定時総会終結の時**

3. **公示日：2019 年 4 月 1 日（月）**

4. **立候補受付期間：2019 年 4 月 8 日（月）～ 2019 年 4 月 17 日（水）**

5. **投票日：2019 年 6 月 15 日（総会開始前）**

※但し、選挙定数と同数の立候補の場合にあっても、代議員（社員）により信任投票が執り行われます。

6. **開票日：2019 年 6 月 15 日（総会終了直前）**

7. **立候補届の様式**

1)理事・監事の立候補者は「様式第 3-1 号」を作成して下さい。

2)理事および監事選任規定第 9 条で「地区の正会員の意見を等しく反映できる立場の正会員であり、支部役員の推薦を受けることが望ましい」とあることにご留意ください。

3)当会ＨＰより所定の様式第 3-1 号（Ａ４版）をダウンロードし提出して下さい。

4)捺印した立候補届の郵送が必要となりますが、事前にメール添付での提出にご協力願います。

※詳細は 4 月上旬、当会ホームページ (http://www.pt-hokkaido.jp/web/) にてお知らせ致します。

災害時のリハビリテーション支援に関する研修会（実践編）を受講して

訪問看護ステーションふじ　五十嵐　一徳

昨年 1 月、「災害時の支援コーディネーター研修会」を受講し、地域包括ケアシステムが推進されている中で、有事の際の災害リハビリテーションの実際と後方支援について学ぶ必要性を感じました。この度、平成 31 年 1 月 26 日、27 日に開催された「災害時のリハビリテーション支援に関する研修会（実践編）」を受講しました。

初日は REHUG（リハビリテーション本部運営ゲーム）ファシリテーター養成研修会が行われました。講師の熊本県理学療法士協会理事、佐藤　亮氏から熊本地震における本部運営の体験談や現地での活動報告、REHUG 養成研修、実際の REHUG を用いたグループワークが行われました。昨年「Do はぐ（北海道版避難所運営ゲーム）」は経験していましたが、今回の REHUG を通じて災害支援における「調整本部」と「活動本部」でどのような活動が行われているのかを知ることが出来たのは貴重な経験でした。

二日目は道庁担当者ならびに被災地支援を行った方々からの活動報告、防災グッズの紹介等が行われました。

昨年 9 月に北海道胆振東部地震を経験し、今回の二日間の研修会を通じて、改めて平時からセラピスト間だけではなく、他職種や地域住民の方々との「顔の見える関係性作り」を進め、有事への備えを進めていきたいと思いました。

研修会の様子

メールアドレス登録のお願い

北海道理学療法士会では、会員に対するお知らせをメールにて配信しています。個人のメールアドレスを登録することにより、講習会の案内や、その他の情報をタイムリーにお届けしております。

つきましては、携帯電話または PC のメールアドレスを下記の方法でぜひ、ご登録ください。

km@pt-hokkaido.jp

□ km@pt-hokkaido.jp に空メール（件名・内容なしのメール）を送ってください。

※携帯電話の場合、空メールする前に pt-hokkaido.jp からメールが届くように設定を変更しておいてください。PC からのメールを拒否している場合は届きません。（ドメイン指定）

□空メールを送ると仮登録のメールが届きます。

仮登録メールには、登録用のページへのリンクがありますので、クリックしてください。

□登録ページではすべての項目で入力が必要です。

□確認ボタンを押した後、内容確認しボタンを押してください。

□確認メールが届くと、登録が完了です。

■登録後、登録内容に変更がある場合は、事務局 office@pt-hokkaido.jp までご連絡下さい。

知識のマグマ Vol.37

臨床に役立つワンポイントアドバイスを紹介

片脚立位テストの再考

北海道大学　大学院保健科学研究院　萬井　太規

姿勢バランスとは姿勢安定性とも表現され、支持基底面（BOS）に対して質量中心（COM）を適切にコントロールする能力と定義されています。中村らは、姿勢バランスを、身体位置の移動を伴わない運動での姿勢保持を静的バランス、身体位置の移動を伴う運動での姿勢保持を動的バランスと定義し、区別しています[1]。

片脚立位テストは、小さなBOS内で安定してCOMを保持できる能力、すなわち静的バランス能力を評価するテストとして周知されています。一般的に、片脚立位保持時間が短縮するほど、または保持中の姿勢動揺が大きいほど、静的バランス能力が低いと解釈されます。しかしながら、臨床場面で用いられる片脚立位テストは、両脚立位姿勢から開始される方法で行われます。つまり、両脚立位から片脚立位への移行動作においてCOMを制御する動的バランス能力も必要となると考えられますが、移行動作の特徴を示すデータは、不十分と言わざるを得ません。

そこで、我々は、COMと足圧中心（COP）の位置関係から、片脚立位動作を3相（加速相、減速相、保持相）に区分する方法を考案し、高齢者の特性を分析しました[2]。始めにCOPが遊脚側方向に偏移しCOMを加速させる加速相、ついで、COPがCOMを支持脚側へ超えることでCOMを減速させる減速相、最後にCOMが支持脚にて保持される保持相と定義しました（図2）。各相のCOPとCOM間の距離（$D_{加速相}$、$D_{減速相}$、$D_{保持相}$）を高齢者と若年者間で比較し、さらに、変数間の相関、および片脚立位保持時間との相関も算出しました。結果、高齢者は、COPとCOM間の距離が加速相では有意に小さく、減速相と保持相では有意に大きい結果でした。さらに、各相のCOPとCOMの距離は有意な相関を認め、片脚立位時間とも有意な相関を認めました（表1）。

この結果は、1）高齢者は、保持だけでなく、移行動作（加速相と減速相）も姿勢バランスが低下している、2）両脚立位から開始する片脚立位テストは、静的バランス能力だけでなく、移行動作における動的バランス能力も重要である、3）移行動作の姿勢バランスは保持相の姿勢バランスに影響することを示しています。

極端に片脚立位保持時間が短い患者様においては、静的バランス能力だけが低下しているのではなく、動的バランス能力、すなわち、移行動作（体重移動）の能力も問題となっている可能性があることを理解されたかと思います。片脚立位テストの結果から安易に静的バランス練習を行うのではなく、動的バランス能力の問題も含めた視点から評価・治療していくことが望まれます。

また、動的バランスと静的バランスを区別する方法の一つとして、従来の片脚立位テスト方法に加え、平行棒などを把持した状態で片脚立位姿勢をとることで、体重移動の影響をなくし、手を離した後で評価を開始する方法での評価が考えられます。従来の両者の方法を適宜用いることで、新たな知見が得られる可能性が示唆されます。

患者様の病態を適切に評価するためには、「片脚立位テストは静的バランスの評価」という概念から脱却し、今一度、テスト方法などを再考していく価値があると考えられます。

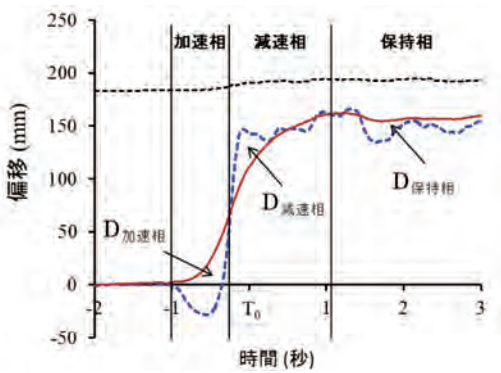


図1　片脚立位動作中の体重心と足圧中心の側方偏移
数値が大きいほど、支持脚に偏位したことを示す。
各相のCOPとCOM間の距離をそれぞれ$D_{加速相}$、$D_{減速相}$、$D_{保持相}$とする。

表1　片脚立位時間とCOP-COM間距離との相関

	片脚立位時間	
$D_{加速相}$	0.33*	-0.41*
$D_{減速相}$	-0.44*	
$D_{保持相}$	-0.65*	0.50*

データは総関数を示す。
＊：統計的に有意な相関（$p<0.05$）。

【引用文献】
1. 中村隆一ら．基礎運動学 第6版．医歯薬出版．2003
2. Mani et al., Age-related changes in distance from center of mass to center of pressure during one-leg standing, J. Mot. Behav. 47 (2015) 282-90.

理学療法士に知ってほしい NEWS

5分でわかる！

社会・医療情勢の中で、理学療法（士）に関する内容を中心にピックアップしてみなさまにご紹介します。

職能局　職域事業部

□生活を想定したリハビリテーションの取り組み

社会保障審議会介護給付費分科会（第146回）資料3

高齢者の自立支援に資する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の活用より一部抜粋

資料13ページ　重度要介護者の自立支援・重度化防止を促進する取り組み（介護老人保健施設での事例）

基本情報　90代男性。疾患名：左膝関節疾患（詳細不明）。
現病歴：在宅にて認知機能の低下と膝関節痛から廃用症候群が進行し、仙骨部の褥瘡が発生し入院となった。褥瘡治癒後、併設の介護老人保健施設に入所となった。

目　標　離床時間の拡大と誤嚥の改善及び介護負担の軽減。

	初期	3か月後
身体機能	・JCS：20	・JCS：2
	・股関節屈曲　：　右30°　左55° ・股関節内転　：　右-15°　左-20°	・股関節屈曲　：　右65°　左60° ・股関節内転　：　右0°　左-15°
	・Hofferの座位能力分類　：　3	・Hofferの座位能力分類　：　1
活動・参加	・FIM総得点：18点 コミュニケーション理解：1点 コミュニケーション表出：1点	・FIM総得点：19点 コミュニケーション理解：1点 コミュニケーション表出：2点
	・離床時間と活動内容 食事のみ1食30分　合計90分	・離床時間と活動内容 食事の他にテレビ鑑賞や家族とのコミュニケーションなど　合計200分
	・介護者の負担感 食事介助はむせ込むため非常に大変だった。	・介護者の負担感 食事介助はむせ込みが減り、それほど大変ではなくなった。

連携のポイント　むせ込みの少ない頸部のポジショニングや食事摂取量の状態の情報共有。

介入開始前
意識レベル：JCS-20

介入開始3ヶ月後
意識レベル：JCS-2

親戚と談笑　一日の離床時間
：介入前90分→3か月後　200分

13

情報提供キャラクター

ベテラン上司“Ｎａｏ”　後輩“Ａｙａ”

Naoさん、
理学療法士が重度要介護者に関わる際、どのような役割を果たしていくべきでしょうか。

Ayaさん、
社会保障審議会では、介護保険給付について話し合われており、高齢者の自立支援等に対し理学療法士がどのようなことができるか３団体合同で提案されているよ。
今回は、重度要介護者の関わりについて紹介しよう。

はい！
今回表に挙げられている関わりでは、身体機能や日常生活動作の他、【離床時間と活動内容】、【介護者の負担感】についても評価されていますね。

うむ。利用者さんやご家族、介護職員・相談員等の視点から、『日常現場の声が聞ける』ということは、よりよいケアを目指す上で大切なことなのだよ。リハビリテーション専門職として、寝たきりの予防や離床の提案を行う他、介護者の負担についても着目して関わっているのだよ。

なるほど！
事例の中でも３ヶ月後に意識レベルや関節可動域が改善した他、離床時間が拡大したことで『テレビ鑑賞や家族とのコミュニケーションを取る環境』が得られていますね。
さらに介助者より『食事介助が大変ではなくなった』と負担感についても変化がみられています。

そうだね。
リハビリテーション専門職がチームの一員として、むせ込みの少ないポジショニングや食事摂取量について情報共有できたことがポイントとなっているのだね。我々が日頃関わる重度要介護者においても、チーム連携を進めていけば『もっとできる活動やもっとできる参加』を見出すことができるかもしれないね。

ニュースの内容を詳しく知りたい方は、左のQRコードを読み取って下さい。

ニュースに関するご意見・ご感想がありましたら hpta.shokuikijigyoubu@gmail.com までお願い致します。
今後のニュース作成の参考とさせて頂きたいと思います。

かっこいいです！
私もチームの一員として頑張ります!!

～職場紹介～
会員が働いている現場を紹介

会員が働いている現場や PT マップでは伝わらない職場の
雰囲気などをリレー形式でみなさんに紹介していきます。

愛全病院　荒井　裕章

当法人は、札幌市南区を中心に愛全病院をはじめ、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、高齢者総合福祉施設、グループホームなどの施設系サービスや、訪問看護ステーション、訪問介護ステーションなど在宅系サービスの両面を担っております。その中で、愛全病院は、札幌市南区川沿にあり、医療の中核として各施設と連携を取りながら日々運営をしております。また、一昨年 12 月に病院建て替え工事が終了し、新病院としてグランドオープンしました。法人としては今年の 6 月で 50 周年の節目を迎えます。

愛全病院は、回復期～生活期を対象としており、ベッド数は 609 床。入院患者の平均年齢は約 84 歳で、高齢者が多くを占めています。単一疾患の患者様は少なく、生活習慣病や心不全をはじめ複数疾患を抱えているのが特徴です。

当院のリハビリスタッフは、理学療法士 61 名、作業療法士 51 名、言語聴覚士 19 名、歯科衛生士 1 名の計 132 名で構成されており、その規模は北海道でも最大級であると自負しております。リハビリテーション部の特徴として、職種関係なく、患者の生活、ひいては人生を考えることを役割としております。そのため、早出や遅出を早期から導入し患者様の生活をリアルタイムで評価しております。また、リハビリ介入もリハビリ室だけで行うのではなく、実際の生活の場である病棟でのリハビリを実施し、実生活への汎化をできるだけ早期に行えるよう日々尽力しております。同時に、多職種連携の強化を目的にリハビリ担当者は昨年 12 月より病棟専属制を採用しております。これまでは、複数病棟を担当していたため、情報共有が不足してしまう事もありましたが、病棟毎に固定されたため、会話量も自然と多くなり、情報共有が密に行えることで、結果として患者へのサービスの質向上に繋がっています。

スタッフの特徴としては、1 ～ 3 年目の若手スタッフが非常に多く全体の約 3 分の 1 を占めております。そのため、人材育成が非常に重要であり、勉強会やグループワークを定期的に開催し、年代の垣根なくコミュニケーションを日々取りながら研鑽に励んでおります。評価としては、ラダー評価を昨年度から導入。リハビリ専門職として、専門分野について評価していくのは当然ですが、1 人の社会人として重要である接遇やマナー、多職種連携に必要不可欠であるコミュニケーション能力やリーダーシップ能力など評価項目は多岐にわたります。専門職として、また人間として日々成長していけるよう目標を設定し日々の業務に臨んでいます。

地域貢献活動にも力を入れており、月 1 回地域住民向けの体操教室を、「イキイキ LOVELOVE 体操」と命名し実施しております。内容としては、専門職種から体操指導や体力測定を実施。終了後には、座談会として日頃の悩み相談を受けるなど、地域の方々と顔の見える関係の構築をしております。

このように様々な取り組みを先駆的に実施していくことで、時に大変なこともありますが、やりがいのある職場となっております。一人一人が常に互いに高めあいながら、毎日明るく楽しく仕事ができるよう、これからも一丸となって頑張っていきたいと思います。

※みんなで力を合わせて頑張ってます

講習会・研修会案内

お申込みはこちらからお願い致します。
日本理学療法士協会　受講申込み
https://mypage.japanpt.or.jp/jpta/se/seSeminerOpenList.html

北　海　道　理　学　療　法　士　会　主　催

新人教育プログラム必須研修会【札幌会場】

日　時：2019年7月7日(日) 9：00～16：30
会　場：札幌コンベンションセンター
テーマ：新人教育プログラムA-1～A-5(必須テーマ)
参加費：2000円

新人教育プログラム必須研修会【帯広会場】

日　時：2019年9月29日(日) 9：00～16：30
会　場：十勝リハビリテーションセンター
テーマ：新人教育プログラムA-1～A-5(必須テーマ)
参加費：2000円

第24回スポーツ支援講習会

日　時：2019年5月19日（日）9:30～15:00
会　場：トレリハセンターていね
　　札幌市手稲区稲穂１条１丁目４－１
テーマ：北海道高校野球メディカルサポート事前講習会
参加費：会員4000円、非会員6000円

講習会・研修会の受講申込に関するお願い

学術局長　杉原　俊一
教育局長　加藤　新司

① 申込み締切後の受付はいたしません。
② 参加費を事前支払期限までに支払わず、自動キャンセルとなった場合でも当日受付はいたしません。
③ キャンセルおよびキャンセルに伴う参加費の返金はいたしません。
④ お申し込みから 5 日以上経過しても振込用紙が届かない場合は、
至急、日本理学療法士協会へお問い合わせください。日本理学療法士協会：03-6804-1421
⑤ 事前に @japanpt.or.jp、@pt-hokkaido.jp の受信許可の設定をしてください。
また、受講申込直後に自動返信メールが届いていない場合は、申込みが完了していない可能性がございます。
一両日中に事務局（TEL：011-213-0301）までご連絡願います。
⑥ 日本理学療法士協会会員証（IC カード会員証）は、協会・士会（支部）事業への参加の際には必ず携帯してください。
⑦ キャンセルポリシーについて
地震・台風・豪雨・大雪等の自然災害、交通災害による交通遮断及び講師の急病・都合等のやむを得ない事情により、研修会・講習会の中止・日程変更をさせていただくことがございます。中止の場合は、参加費は全額返金いたします。日時の変更の場合は、あらためて参加･不参加のご希望を確認させていただき、ご参加いただけない場合は、参加費を全額返金いたします。
また、これに伴う交通費、宿泊費、その他の個人的損害につきましては、北海道理学療法士会では責任を負いかねますので予めご了承ください。
なお、中止によりご返金となる場合は、履修ポイントの付与はいたしません。

「5 分で分かる理学療法士に知ってほしい NEWS」に関するアンケート調査報告

職能局　職域事業部　芳賀　貴幸

1．調査背景及び目的

現在、(公社)北海道理学療法士会職能局職域事業部では「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」を、毎月発行し研修会での配布、ホームページ・ノーザナーへの掲載を行っている。今後のよりよいニュース作成の為、アンケート調査を実施した。

2．調査方法

平成 30 年度の北海道理学療法学術大会、9 月～ 11 月実施の一部の研修会参加者にアンケート用紙を配布し、紙面にて回答を得た。

3．調査内容

①経験年数
②所属施設の区分
③いままでに「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」を読んだことがあるか
④読んだことのある方の読んだ媒体について
⑤読んだことのある方は参考になったか
⑥社会・医療情勢や職能に関する情報に興味があるか
⑦社会・医療情勢の中で興味のある内容や知りたい内容について
⑧社会・医療情勢、職能や診療・介護報酬に関わる情報をチェックしたり調べたりすることがあるか
⑨上記 Q8 で「あまり調べない」「まったく調べない」と答えた方の理由について
⑩「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」に関しての意見（自由記載）

4．結果

アンケート回収数　669 名

①経験年数

1-3 年目 247 名（37%）4-9 年目 199 名（20%）10 年目以上 222 名（43%）無回答 1 名

②所属施設の区分

病院・診療所 577 名（85%）、保健・福祉施設 40 名（6%）、在宅サービス事業 26 名（4%）、教育研究施設 18 名（3%）、行政機関 2 名、その他 1 名、無回答 1 名

③いままでに「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」を読んだことがあるか　＜図 1 ＞

3 回以上ある 296 名（44%）1-2 回ある 138 名（21%）今回はじめて読んだ 64 名（10%）読んだことはない 129 名（19%）読んだことはないが知っていた 42 名（6%）

④読んだことのある方の読んだ媒体について（複数回答可）　＜図 2 ＞

研修会で配布されたもの、ノーザナーで多く読まれていた

図 1

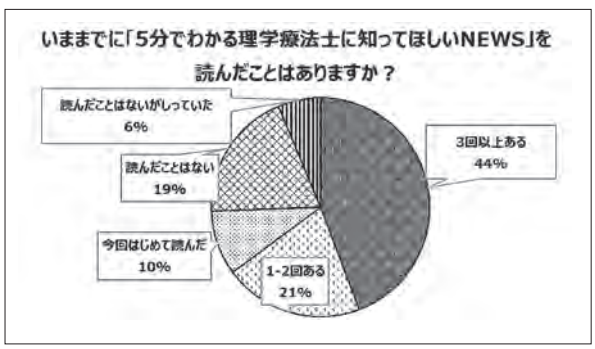
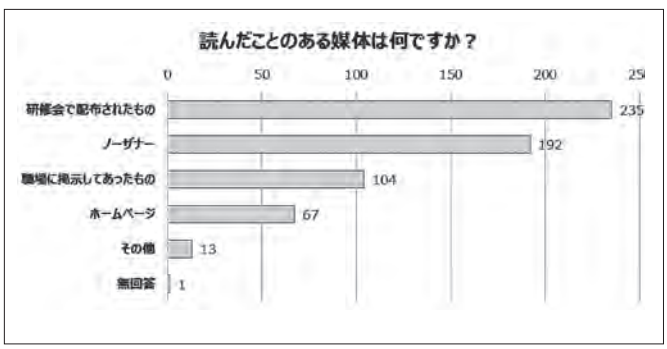


図 2



⑤読んだことのある方は参考になったか　＜図３＞
「とても参考になった」121 名（25%）、「やや参考になった」303 名（63%）、どちらでもない 46 名（9%）、「あまり参考にならなかった」4 名（1%）であった

⑥社会・医療情勢や職能に関する情報に興味があるか　＜図４＞
「非常にある」30%、「ややある」50%、「どちらでもない」14%、「あまりない」3%であった

図3

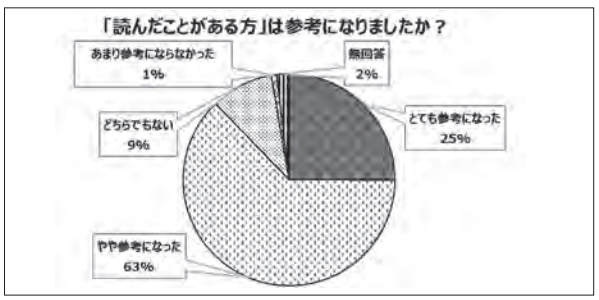
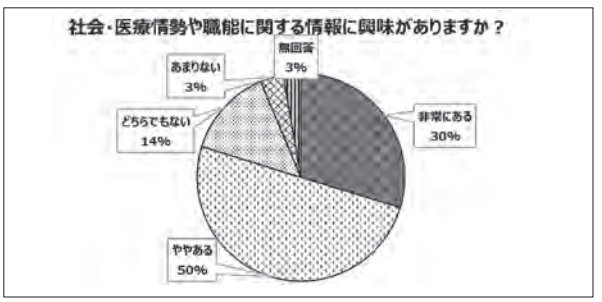


図4



⑦社会・医療情勢の中で興味のある内容や知りたい内容について（複数回答可）　＜図５＞
「診療報酬改定の最新情報」「理学療法士に関わる制度・法律」が多い結果となった

⑧社会･医療情勢､職能や診療･介護報酬に関わる情報をチェックしたり調べたりすることがあるか　＜図6＞
「よく調べる」89 名（13%）、「ときどき調べる」332 名（50%）「どちらでもない」99 名（15%）あまり調べない 119 名（18%）まったく調べない 21 名（3%）

図5

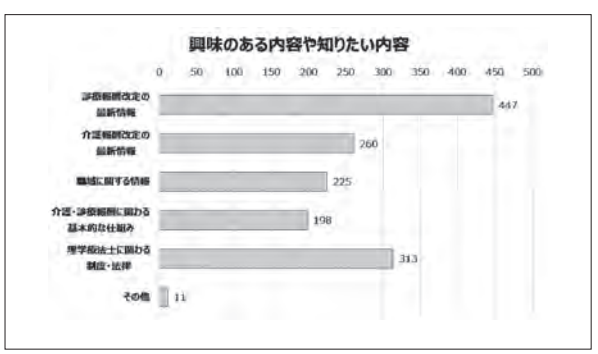
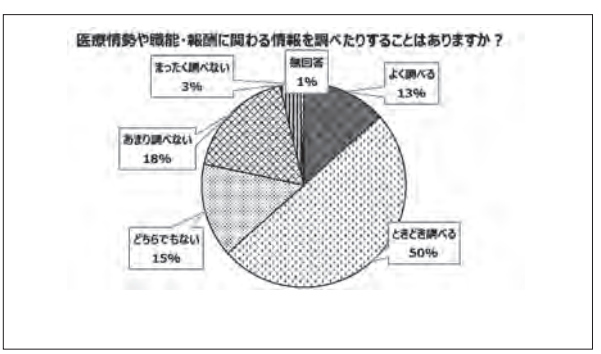


図6



⑨上記 Q8 で「あまり調べない」「まったく調べない」と答えた方の理由について（複数回答可）
興味がない 28 名（18%）、自分には関係がない 2 名 (1%)、どこで調べたらよいかわからない 94 名（59%）、調べる時間がない 31 名（20%）

⑩「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」に関しての意見（自由記載）　一部抜粋
・メールや LINE などの媒体でも配信すると周知しやすいのではないか　・スピードのある情報がほしい
・いつも読んでいる、継続してほしい　・わかりやすく、自分で調べる手間が省けて助かっている

5．まとめと今後について

- 今回、回答得た 65%がこれまでに読んでいるという結果となった。また、「とても参考になった」「やや参考になった」を合わせると 88%であり、現在のニュースは一定の成果はあったと考える
- 今回初めて読んだ方と、読んだことが無い方を合わせると 30%であり、今後もニュースの存在を周知していくとともに、読んでもらえる内容としていく必要がある
- 読んだ事のある媒体としては、ホームページや職場内での掲示が他の媒体に比較し少なくなっていた。今後は、ホームページに掲示していることを周知したり、職場での掲示を依頼したりすることを検討する必要がある
- 社会・医療情勢には多くの会員が興味があり、会員に役立つ情報を今後も提供していく必要性がある
- 社会・医療情勢、職能や診療・介護報酬に関わる情報をあまり調べない方は約 20%いる結果となったが、「どこで調べたらよいか分からない」や「調べる時間がない」という回答が多かった。これに対して、「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」が一助となるよう今後も取り組む必要がある
- 「5 分でわかる理学療法士に知ってほしい NEWS」に対する意見としては､好意的な意見をいただいた。今後は、より多くの会員に読んでいただけるような内容と配信手段の検討をしていく

シリーズ「田中まさしが行く！」（第４回）

「業務のあり方の見直し、そして処遇の改善を目指して」

公益社団法人　日本理学療法士協会　田中　まさし

こんにちは、日本理学療法士協会（前北海道千歳リハビリテーション学院）の田中まさしです。

皆さんの業務を振り返った時、矛盾や問題などはありませんか。

理学療法士の診療報酬は出来高払い制ですが、がんリハビリテーションの外来算定ができずに術前介入ができない、書類作成が義務づけられているのに単位時間に含まれず報酬が算定できない、本来は他の職種が作成すべき書類を作成せねばならず業務時間がとられるなど数多くの問題が見受けられます。一方で、目標単位数をこなして収入を確保することを求められ、疲弊する現場を目にします。

必要とする患者や利用者に必要な理学療法を提供し、専門職として実施した業務に対する報酬が受けられることは当然のことであると思います。臨床現場にて生じている矛盾や問題を洗い出し、業務として適正な位置づけを求め、報酬および処遇の改善に向けてしっかりと働きかけていかねばならないと思います。

日々現場で活躍する理学療法士の皆様からの声をよく聞き、これを集約して取り組んでまいります。

掲載作品（写真等）募集のお知らせ

会員の皆様から、当会会報誌やホームページへ掲載する作品（写真等）を随時募集しております。

●注意事項

・無料でご提供頂きます。
・頂いた作品データは、自由に配布、改変できるものとします。
・応募者本人で作成頂いたもの、肖像権、著作権をクリアしたものに限ります。
・保存形式は jpg、psd、ai、eps のいずれか。
・jpg 及び psd データの場合、可能な限り解像度の高いもの（300ppi 程度が望ましい）。
・zip 形式にてデータを圧縮頂き、送付願います。
・ご提供頂いた方のお名前をご掲載させて頂きます。

●応募方法

会員番号、お名前、ご所属先を記載頂き、
作品データを添付の上、下記までご連絡願います。
事務局：office@pt-hokkaido.jp

平成 30 年度第 3 回臨時理事会議事録要約（通算開催第 52 回）

1. 日　　時：平成 31 年 1 月 19 日（土）13：30 ～ 16：35

2. 場　　所：カミヤマビル会議室

3. 出 席 者：理事：太田　誠、信太　雅洋、柿澤　雅史、杉原　俊一、加藤　新司、長井　豊貴、濱本　龍哉、小林　巧、時永　広之、畑原　理恵、高橋　尚明、橋田　浩、前島　洋、盛　雅彦、近藤　和夫、石田　亮介、小山内康夫、佐藤　義文、石田　和宏、塩野谷千恵子、幸嶋　悠介、前田健太郎、森　茂樹、遠藤　力、大倉　修一　（欠席：梅本　かほり）

監事：小神　博、岡田しげひこ（欠席：千葉　卓）

4. 決議事項

1）支部全道学術研修大会における開催回数の表記について
（学術局長　杉原）

2019 年度は同一年度内に 2 支部で支部学術研修大会が開催されるが、学術研修大会の名称は援助金が執行された支部にのみ使用されるため、回数カウントを誤ることが予測される。混乱を避けるため支部毎の回数を記載せず、協会の方法に準じて学会研修部で回数を管理したいとの説明がなされた。しかし、提案された記載方法では、支部の開催履歴が残らないことや、士会業務へのモチベーションが低下する等の不安視する意見が挙げられた。この他、並列で記載する案なども出されたことから、改めて常任理事会での再審議を経て 3 月の理事会へ再度提出する。

2）就業規則の一部変更について（副会長・事務局長　柿澤）

就業規則の一部改正について説明。①就業規則第 8 章第 44 条（健康診断）、一般健診は個人の希望検診も含めて 1 万円まで法人負担としている。がん検診等の希望検診については、年齢制限等の理由により、行政や協会けんぽ等の補助制度を利用しても自己負担が多く発生する場合が多い。福利厚生上の観点からも希望検診の受診補助を改定したい。②育児休業規程第 3 章第 6 条（子の看護休暇）について、現行では、就学前の子を養育する職員は、子の看病のために子一人につき 5 日間、二人の場合は 10 日間を限度として、半日単位で看護休暇を取れるが無給とされている点を有給へ変更したい。③給与規定第 1 章第 3 条（賃金の締切・支払い時期・方法）について、現行では、「毎月 20 日締とし、当月 25 日に指定の銀行口座に振込を行うものとする」とされているが、残業手当及び欠勤控除についてのみ、20 日締で翌月 25 日支給へ変更したい。

以上、3 点の就業規則の変更案が承認された。変更日は平成 31 年 1 月 19 日付とする。

3）名義後援申請承認について（副会長・事務局長　柿澤）

以下の名義後援申請 1 件が承認された。

平成 31 年 8 月 24 日（土）日本緩和医療学会第 2 回北海道支部学術大会（特定非営利活動法人日本緩和医療学会）

4）新入会及び復会の承認について（副会長・事務局長　柿澤）

平成 30 年 11 月 1 日～ 12 月 31 日届出受理分の新入会 1 名、復会 3 名の会員異動について承認された。

5. 審議事項

1）平成 31 年度の事業計画及び予算案について
（副会長・事務局長　柿澤）

会長、各局長、地区理事より平成 31 年度事業計画案が説明された。平成 31 年度予算案を各局より提出を頂いたが、当期一般正味財産増減額の金額が大きかったため常任理事会で再度審議、見直し案の再提出となった。

結果、平成 31 年度事業予算案は、経常収益 77,495 千円、経常費用 84,818 千円、当期一般正味財産増減額は -7,323 千円とされた。また、職能局及び支部事業局から事業計画案を一部訂正すると報告があった。これらの訂正も含めて平成 31 年度事業計画及び予算案の最終確定は 3 月の理事会で行うことする。

2）キャンセルポリシーの運用方法（案）について
（学術局長　杉原）

キャンセルポリシーは、既に HP へ掲載しているが、学術局と教育局でキャンセルポリシーの運用方法（案）を作成した。開催中止の基準は、開催前日の平日昼 12 時の時点で、開催地に各種「警報」が発令されている場合。その他、天災など（余震、停電による交通障害等）の危機管理上の観点から開催しない方がよいと判断される場合、講師の急病・都合等のやむを得ない事情が発生した場合とした。中止判断は学術大会・学術研修大会・支部学会大会長及び講習会責任者が当該地区理事及び局長と協議の上、前日の 12 時迄に決定する。中止とする場合は、講師及び会員、事務局へ開催前日の 14 時迄に通知することとし、連絡手順についても説明がなされた。挙げられた意見をもとに、理事会へ決議事項として提出する。

6. 報告事項

1）業務執行理事及び各局活動状況の報告（第 3 四半期報告）について（副会長・事務局長　柿澤ほか各業務執行理事）

平成 30 年度第 3 四半期の業務執行状況が報告された。

2）平成 31 ～ 32 年度支部役員の選出について
（副会長・事務局長　柿澤）

現任の支部役員が平成 31 年 3 月末日をもって任期満了となる。次期支部役員に関して、2 月 22 日までに次期名簿の提出をお願いした。

3）平成 31 年度役員選挙の日程について
（選挙管理委員長　樋口）

樋口選挙管理委員長に代わり、柿澤副会長・事務局長より平成 31 年度役員選挙の日程が報告された。

4）平成 31 年度（2019 年度）の会議日程について
（副会長・事務局長　柿澤）

平成 31 年度の会議日程が報告された。

5）名義後援承諾団体承認の報告（副会長・事務局長　柿澤）

名義後援申請 3 件が承認されたことを報告した。

①平成 30 年 12 月 8 日（土）第 84 回北海道内部障害リハビリテーション研究会定例会（北海道内部障害リハビリテーション研究会）

②平成 31 年 2 月 14 日（木）第 68 回苫小牧リハビリテーション研究会講演会（苫小牧リハビリテーション研究会）
③平成 31 年 2 月 17 日（日）日本ボバース研究会北海道ブロック平成 30 年度第 3 回成人部門勉強会（日本ボバース研究会北海道ブロック）

6）名義後援事業報告（副会長・事務局長　柿澤）
承諾した名義後援事業 5 件が終了したことを報告した。
①平成 30 年 8 月 24 日（金）～ 25 日（土）日本職業リハビリテーション学会第 46 回（北海道）大会（日本職業リハビリテーション学会）
②平成 30 年 9 月 29 日（金）～ 30 日（日）日本乳幼児精神保健学会 FOUR WINDS 第 21 回全国学術集会旭川大会（日本乳幼児精神保健学会 FOUR WINDS　第 21 回全国学術集会旭川大会実行委員会）
③平成 30 年 11 月 3 日（土）　第 3 回ヘルスケア（医療・介護分野）ロボット展（一般社団法人北海道ヘルスケア・ロボット協会）
④平成 30 年 11 月 4 日（日）第 7 回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会（北海道神経難病リハビリテーション研究会）
⑤平成 30 年 11 月 17 日（土）くしろ糖尿病デー市民公開講座（NPO 釧路 CDE 研究会）

7）派遣・推薦について（副会長・事務局長　柿澤）
9 事業 36 名の会員派遣と推薦について報告した。
【派　遣】（敬称略）
①平成 31 年 1 月 19 日（土）協会指定管理者（職域別）中央研修会（生活期）　長尾　俊（老健エル・クォール平和）
②平成 31 年 1 月 19 日（土）協会指定管理者（職域別）中央研修会（回復期）　和田　来緒（西円山病院）
③平成 31 年 1 月 27 日（日）協会指定管理者（職域別）中央研修会（地域包括ケア病棟）
石岡　裕子（札幌秀友会病院）
④平成 31 年 1 月 27 日（日）協会指定管理者（職域別）中央研修会（急性期）　千葉　健（北海道大学病院）
【推　薦】（敬称略）
①平成 30 年 11 月 13 日（火）札幌刑務所社会復帰支援指導講師
石橋　晃仁（日本医療大学）
②平成 31 年 3 月上旬～中旬予定　札幌市難病患者等在宅療養支援計画策定・評価事業における研修会講師
兒玉　健宏（新さっぽろ脳神経外科病院）
③北海道マラソン 2019 組織委員会（任期：発足の日から解散の日まで）
太田　誠（つしま医療福祉グループ）／大会会員、山本　泰雄（西岡第一病院）／実行委員
④札幌市介護認定審査会委員 24 名（任期：平成 31 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日）
澤口　雄治（NTT 東日本札幌病院）、柿澤　雅史（札幌医科大学附属病院）、千葉　健（北海道大学病院）、畑原　理恵（自宅）、小川　真太郎（訪問看護ステーションポット東）、芳賀　貴幸（クラーク病院）、太田　智弘（自宅）、中井　雅嗣（介護老人保健施設げんきのでる里）、鈴木　靖枝（特別養護老人ホームかりぷ・あつべつ）、堀野　麻衣子（訪問看護ステーションみのり札幌南）、田附　満（札幌北辰病院）、深坂　克洋（新札幌パウロ病院）、兒玉　健宏（新さっぽろ脳神経外科病院）、釘本　充（柏葉脳神経外科病院）、小泉　洋一（訪問看護ふれあいステーション）、池滝　直哉（訪問看護ステーションモア・アクティブ札幌白石）、当麻　靖子（西岡第一病院）、阿部　史（北海道循環器病院）、高村　雅二（自宅）、久保　杏介（札幌藤が丘整形外科医院）、加藤　新司（札幌山の上病院）、原　清和（札幌第一病院）、橘田　将一（秀友会在宅リハビリテーション部）、佐藤　義文（札幌渓仁会リハビリテーション病院）
⑤札幌市障害支援区分認定等審査会委員 4 名（任期：平成 31 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日）
杉原　俊一（札幌秀友会病院）、内藤　麻生（訪問看護ステーションつぼみ）、菊地　伸（札幌市西区介護予防センター西町）、吉田　香織（北海道リハビリテーション大学校）

8）JIMTEF 参加報告について　（副会長・事務局長　柿澤）
研修会に参加した会員より報告書が提出されたことを報告した。
- 平成 30 年 11 月 17 日～ 18 日　第 9 回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース　箭内　一浩（道東支部）
- 平成 30 年 12 月 15 日～ 16 日　第 10 回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース　前田　有一郎（日胆支部）

9）平成 30 年度北海道社会貢献賞の結果報告について
（副会長・事務局長　柿澤）
北海道社会貢献賞へ 1 名を推薦したが、受賞に至らなかったことを報告した。

10）平成 30 年度協会賞の推薦について
（副会長・事務局長　柿澤）
平成 30 年 12 月 19 日の表彰推薦選考委員会にて、平成 30 年度日本理学療法士協会協会賞へ伊藤　俊一会員（北海道千歳リハビリテーション大学）と古名　丈人会員（札幌医科大学）の 2 名を推薦したことを報告した。

11）各種会議等への出席報告及び出席予定
各種の会議等への出席した報告と今後の出席予定について報告された。

12）会員異動（平成 30 年 11 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日届出受理分）
道内異動：40名　復会：3名　転出：1名　転入：3名
総会員数：5,996名（在会：5,402名、不明：28名、休会：566名）
公文書発行枚数：35枚

▶▶▶ 事務局からのお知らせ ◀◀◀

1	**異動・住所変更 改姓・転出入　等**	○異動（休退会を含む）が生じ次第、速やかに協会マイページより、変更手続きをお願い致します。 ※マイページ ID、PW 紛失の場合は、日本理学療法士協会　TEL：03-6804-1421　へ申請願います。 ○ご結婚等で改姓をされた際の免許の書き換えは、お住まいの地区の保健センターでの手続きとなります。
2	**年会費納入 年会費領収書**	**【会費納入について】** **○今年度（H30 年度）より会費納入期限が変更となりました。** **詳細は日本理学療法士協会 HP＞会員の方へ＞会員特典・制度＞年会費の納入方法をご確認ください。** **※年度開始前の３月末までに納入がなかった場合、４月より会員権利全面停止となり、６月末までに納入がなかった場合、会員資格喪失により退会となります。（退会の場合、生涯学習履歴は全て無効となり、復会はできません。）** ○納入手続きは、納入漏れや送金手数料が不要の楽天カード作成を推奨致します。 詳細については、日本理学療法士協会へお問い合わせ下さい。（TEL：03-6804-1421　HP：http://www.japanpt.or.jp/ ） **【年会費領収書について】** ○日本理学療法士協会マイページより領収書の取得ができます。 出力方法：マイページログイン＞決済管理＞決済履歴表示＞領収書出力
3	**慶弔関連**	**・慶事：会員の結婚＜ご披露宴に祝電をお届け致します。＞** ①依頼者氏名・会員番号　②本人氏名（女性会員の結婚の場合は旧姓）・本人会員番号 ③日時　④会場・住所・TEL 上記 4 点を記載し、事務局までメールにてご連絡下さい。 **・弔事：会員本人、配偶者及び一親等までのご家族についてのご不幸＜弔意を表します。＞** ①依頼者氏名・会員番号 ②亡くなられた方の氏名 1：会員本人の場合 ・会員氏名 ○○　○○、会員番号 ○○○○○○○○ 2：会員の配偶者及び一親等までのご家族の場合 ・亡くなられた方の氏名 ○○　○○、続柄（実父・義母 等） ・会員氏名 ○○　○○、会員番号 ○○○○○○○○ ③日時（お通夜・告別式）、④会場・住所・TEL、⑤喪主氏名・続柄（亡くなられた方との続柄。妻・長男等） ⑥会員周知対応可否
4	**講習会申込**	事前 WEB 申込みとなっております。日本理学療法士協会マイページよりお申込み下さい。 何らかの理由でマイページからの WEB 申込みができない場合は、ご相談下さい。

冊子個別発送先変更のお知らせ

副会長・事務局長　柿澤　雅史

会員の皆様へ配布している北海道士会配布物（総会資料・学会抄録・北海道理学療法）については、勤務先会員として登録されていて、自宅への送付を希望される場合は、これまで自宅会員への登録変更が必要でした。

平成 31 年 4 月以降は、協会マイページの会員管理内、郵送物送付先へ発送するよう変更することとなりましたのでお知らせいたします。

なお、送付先の変更を希望される方は、異動申請画面にて郵送物送付先の変更をしていただきたく、お願い申し上げます。

公益社団法人北海道理学療法士会　求人募集広告申込要項	
○掲載料金	A4　1 ページ　　白黒印刷　：　32,400 円（税込） A4　1/2 ページ　白黒印刷　：　16,200 円（税込）
○掲載箇所	1.　公益社団法人北海道理学療法士会　会報誌「Northerner」（発行部数 1,900 部） 2.　公益社団法人北海道理学療法士会　ホームページ求人コーナー
○発刊時期	偶数月の 1 日。 ＊ホームページへの掲載は、通常 2 ～ 3 ヶ月間となりますが、期間が過ぎた場合は自動的に削除させていただきます。予めご了承願います。 なお、ご掲載が不要となった場合は、ご連絡下さい。
○お申込み方法	当会ホームページの各種用紙ダウンロードより「求人広告申込要項」を取得して、記載例を参考に作成いただき、ファイルを添付し事務局までメールでお申し込み下さい。お申込を受信しましたら担当者より受領及び校正の連絡を致しますが、連絡が無い場合には事務局（TEL：011-213-0301）までお問い合わせください。なお、校正は原則1回とさせていただきます。 ＊原則として、フォントはＭＳゴシック体とし、指定ロゴ・写真・画像の追加、お取扱いは致しておりませんので、文字のみで作成をお願い致します。
○申込期限	奇数月の 1 日。締切後は次号ご掲載となります。
○お支払方法	掲載された会報誌とともに、ご請求書を同封致します。 お手元に届き次第、お支払い頂きたくお願い申し上げます。
○お申込み・ お問い合わせ先	公益社団法人北海道理学療法士会　事務局 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 2 丁目 1　カミヤマビル 4 階 TEL：011-213-0301　FAX：011-213-0302 E-mail：office@pt-hokkaido.jp ※お申込み・お問い合わせの際は、件名に【求人募集広告依頼】とご記載ください。

＜Northerner 原稿締切＞

No.218（ 6月発刊）2019年 5月 1 日（水）締切

※天皇陛下の退位と即位に伴う祝日により発刊が1週間程度遅れる予定です

No.219（ 8月発刊）2019年 7月 1 日（月）締切

No.220（10月発刊）2019年 9月 1 日（日）締切

締切後にご提出いただいた原稿は、原則次号以降のご掲載となります。予めご了承願います。

＜原稿募集のお知らせ＞

皆様からの原稿を募集しております。
全道の会員へ報告したいこと、伝えたいことがありましたら
下記アドレスまでぜひご連絡ください。
同時に「職場紹介」をご執筆頂ける方を募集しております。
よろしくお願い致します。
原稿送付先：広報部（**kouhou@pt-hokkaido.jp**）

なお、求人広告原稿につきましては、事務局までご連絡願います。
求人広告原稿問合せ先：事務局（**office@pt-hokkaido.jp**）

NorthernerNo.217　2019年4月 1 日発刊
発行：公益社団法人北海道理学療法士会／発行人：太田　誠／編集人：橋本　晃広／印刷：幡本印刷株式会社
事務局：〒060-0003　札幌市中央区北 3 条西 2 丁目 1　カミヤマビル 4 階　TEL：011-213-0301　FAX：011-213-0302

賛助会員【正会員】

キーウェア北海道株式会社
〒060-0807　札幌市北区北7条西1丁目1-5　丸増ビルNo.18　TEL：011-757-8551　FAX：011-757-2322

学校法人淳心学園　北海道千歳リハビリテーション大学
〒066-0055　千歳市里美2丁目10番　TEL：0123-28-5331　FAX：0123-28-5335

学校法人都築教育学園　札幌医療リハビリ専門学校
〒060-0806　札幌市北区北6条西1丁目3-1　TEL：011-716-0555　FAX：011-716-4410

学校法人鶴岡学園　北海道文教大学
〒061-1449　恵庭市黄金中央5丁目196番地の1　TEL：0123-34-0019　FAX：0123-34-0057

学校法人西野学園
〒060-0004　札幌市中央区北4条西19丁目1-3　TEL：0120-558-433　FAX：011-616-2316

学校法人日本医療大学
〒061-1373　恵庭市恵み野西6丁目17-3　TEL：0123-37-4520　FAX：0123-37-4525

学校法人東日本学園　北海道医療大学
〒061-0293　石狩郡当別町金沢1757　TEL：0133-23-1211　FAX：0133-23-1669

学校法人北海道科学大学　北海道科学大学
〒006-8585　札幌市手稲区前田7条15丁目4-1　TEL：011-681-2161　FAX：011-681-3622

学校法人吉田学園　専門学校北海道リハビリテーション大学校
〒060-0063　札幌市中央区南3条西1丁目15　TEL：011-272-3364　FAX：011-272-3365

賛助会員【副会員】

一般社団法人　北海道言語聴覚士会
〒064-0805　札幌市中央区南5条西11丁目1289-5　札幌医学技術福祉歯科専門学校　言語聴覚士科内　TEL：0123-21-9876　FAX：0123-21-9876

公益社団法人　北海道作業療法士会
〒060-0807　札幌市北区北7条西2丁目6　37山京ビル711号室　TEL：011-398-3222　FAX：011-398-3266

大和ハウス工業株式会社　ヒューマン・ケア事業推進部　ロボット事業推進室
〒102-8112　東京都千代田区飯田橋3-13-1　TEL：03-5214-2270　FAX：03-5214-2271

株式会社竹山
〒060-0006　札幌市中央区北6条西16丁目1-5　TEL：011-611-0100　FAX：011-642-0101

株式会社特殊衣料
〒063-0834　札幌市西区発寒14条14丁目2-40　TEL：011-663-0761　FAX：011-663-0955

矢崎化工株式会社　北海道支店
〒072-0007　美唄市東6条北8-2-1　TEL：0126-63-4285　FAX：0126-63-4459

特定非営利活動法人HPT
〒065-0024　札幌市東区北24条東1丁目3-2　樋口ビル3F　TEL：011-733-3122　FAX：011-807-5099

協賛企業

オージー技研株式会社　札幌営業所
〒062-0933　札幌市豊平区平岸3条4-1-25　TEL：011-841-9777　FAX：011-820-2697

酒井医療株式会社　札幌営業所
〒065-0018　札幌市東区北18条東19丁目3-23　TEL：011-780-5570　FAX：011-780-5573

株式会社日本メディックス　札幌営業所
〒007-0861　札幌市東区伏古1条2丁目4-5　美津和ビル103号　TEL：011-787-1182　FAX：011-787-1183

ミナト医科学株式会社　札幌営業所
〒007-0849　札幌市東区北49条東8丁目3-50　TEL：011-741-4588　FAX：011-722-8573

株式会社ムトウ
〒001-0011　札幌市北区北11条西4丁目1　TEL：011-746-5111　FAX：011-717-0547